

## 細菌のサバイバル術 ～トランスポーターの役割～

黒田 照夫

広島大学医歯薬保健学研究院

微生物医薬品開発学

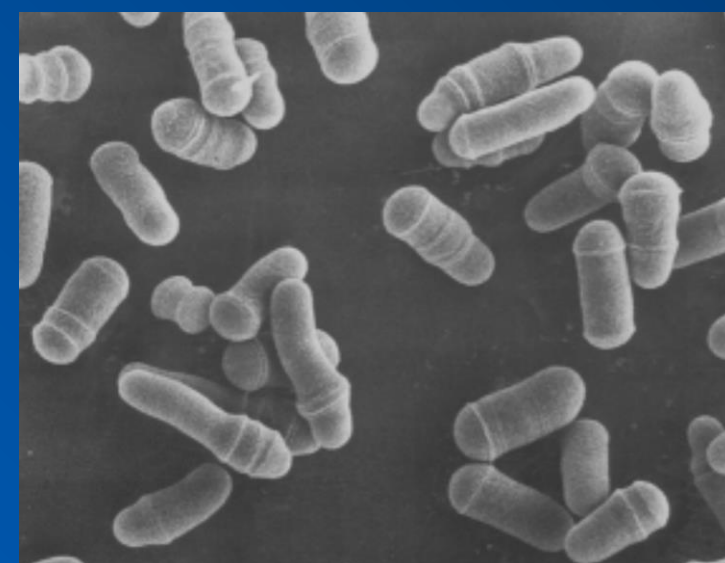
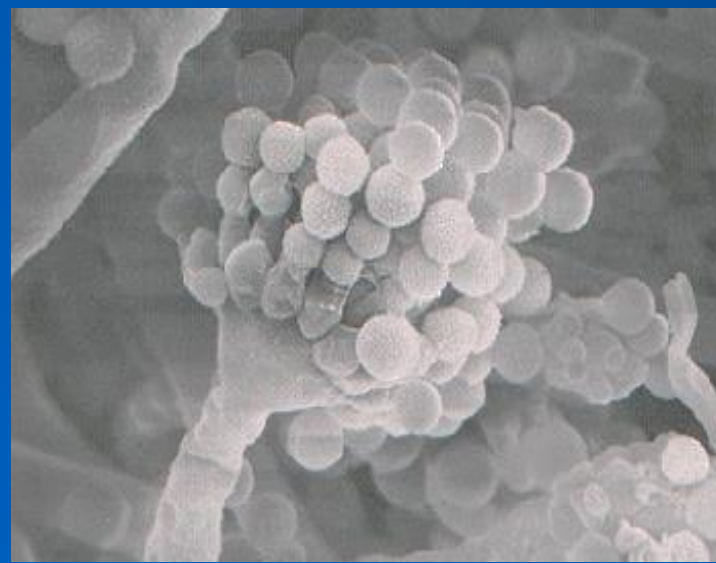
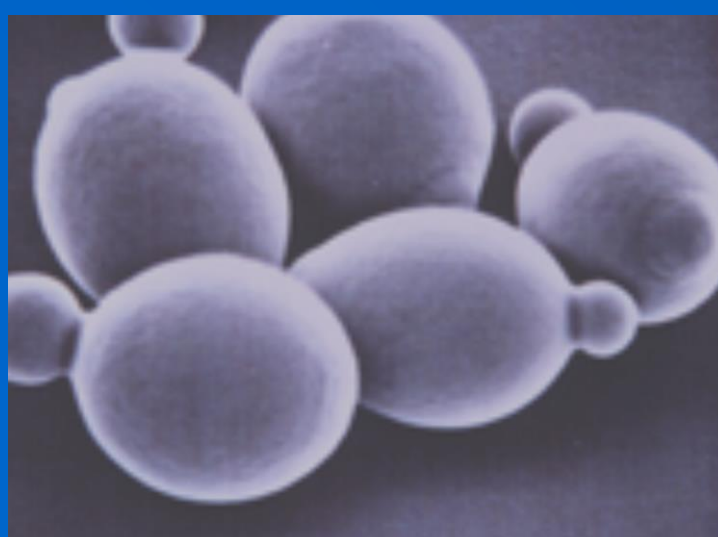
教授

(世話人:水沼 正樹准教授  
大学院先端物質科学研究科  
分子生命機能科学専攻)

### 《概要》

細菌細胞は細胞膜によって外界と隔てられており、細胞膜があるからこそ細胞内の恒常性を維持できる。細胞膜は脂質二重層からなっているが、基本的には水溶性の物質を通過させない。しかし細菌にとって必要なイオンや栄養物質の多くは水溶性である。また細胞内で生じた不要物質や意図せず侵入してきた有害物質も水溶性なものが多い。これらを適切に輸送できなければ細胞は死に至る。ここで必要なものが輸送タンパク質(トランスポーター)である。

演者はこれまで、細菌に害をなす物質を排出するトランスポーター、特に、細胞にとって必須だが多すぎると毒性を示すNa<sup>+</sup>を排出するNa<sup>+</sup>/H<sup>+</sup>アンチポーター、抗菌薬をはじめとした種々の抗菌性物質を次から次へと排出する多剤排出ポンプを中心に研究を行ってきた。本講演では、これらのトランスポーターを巧みに用いた細菌のサバイバル術について話題提供をしたい。



※本セミナーは5研究科共同セミナーです

開催日時：平成 28 年 12月 6日(火) 15:00-16:00

会場：広島大学先端科学総合研究棟 3F 302S会議室

お問い合わせ先

○広島大学大学院先端物質科学研究科分子生命機能科学専攻

・広島大学健康長寿研究拠点：河本 正次(代表)，事務担当：松本

連絡先：E-mail [tomako@hiroshima-u.ac.jp](mailto:tomako@hiroshima-u.ac.jp) TEL 082-424-7867